

●海戦史上最初の空母対空母の戦いとなった「珊瑚海海戦」——ハワイ攻撃いらい母艦運用に実績をかさねる日本艦隊といまだ手探り状態のアメリカ艦隊の激突は双方「痛み分け」の結末となったが、ニミッツ司令官は戦闘の実相をいちはやく分析してその後の対日戦に大きな影響をあたえた——その「戦訓」を秘密報告書から読みとってみる！

ニミッツ大将の「報告書」

五十三年前（一九四二年）の六月十七日、ハワイの合衆国太平洋艦隊司令長官チェスター・W・ニミッツ大将は、『五月四～八日のコーラル・シー（珊瑚海）における海軍作戦』と題する報告書を、ワシントン

アメリカ海軍部隊は、南方資源地帯の攻略を順調におえた日本軍が、パプア・ニューギニアのポート・モレスビー（連合軍の航空中継基地）を海路から攻略するのを阻止するため、珊瑚海で邀撃戦をおこなった。このときの戦闘方式は、従来の水上艦艇同士が視界内で巨砲を射ちあうのではなく、空母から発進した搭載機同士が、たがいの艦船を攻撃して決着をつける、あたらしい海上航空戦だった。

日本軍のポート・モレスビー攻略作戦（MO作戦）は、ラバウルから出港する攻略部隊を乗せた輸送船団（平均速力八ノット）がソロモン海を横ぎってニューギニア本島の東方、ルイジアード諸島の珊瑚礁地帯をジョマード水道からぬけて珊瑚海に進出し、さらに珊瑚海北方にそって二昼

バトル・オブ・コーラルシーの戦訓



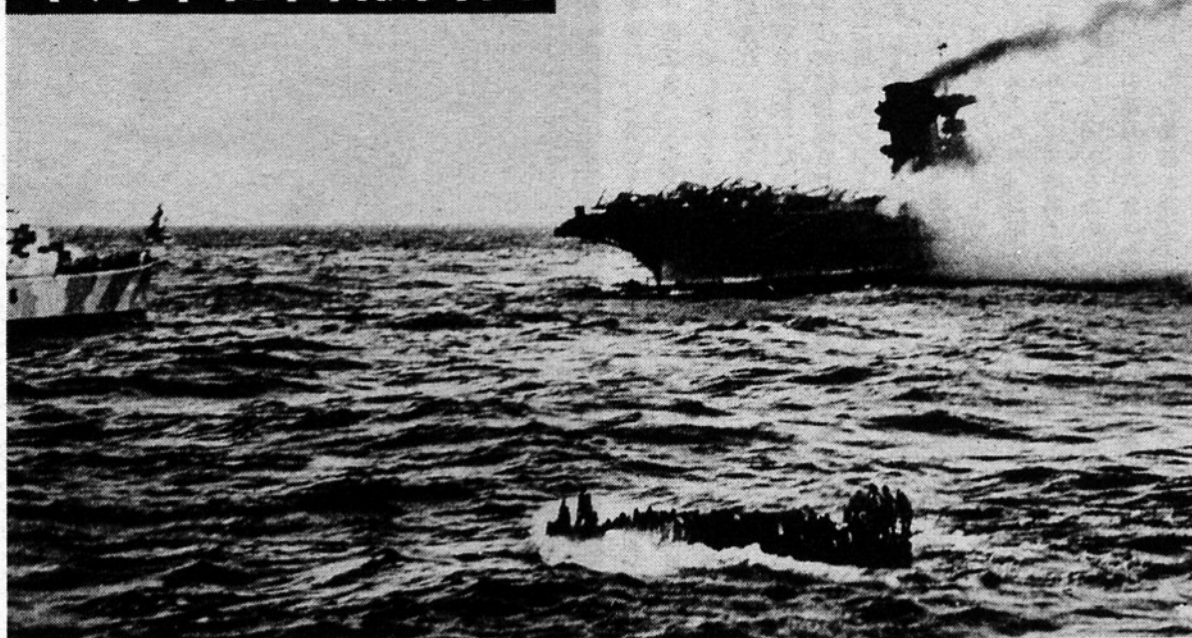
得たのか！

夜航行して、ポート・モレスビー上陸を決行する大渡洋作戦だった。この航路は、低速船団が昼間、オーストラリア本土北部東岸のクックタウン、タウンズビルの連合軍航空基地からの脅威に、およそ一二時間

さらされることを意味した。MO作戦は、珊瑚海の制空制海権を確保して、はじめて成功を期待できるものだった。日本海軍は、改装空母「祥鳳」をMO攻略部隊に編入し、さらに航空戦力の強化のため、



米海軍秘密報告書



珊瑚海における史上初・空母決戦からアメリカ海軍はいかなる戦訓を

第五航空戦隊（翔鶴、瑞鶴）をMO機動部隊として増派した。

これを迎え撃ったアメリカ空母二隻（レキシントン、ヨークタウン）との戦いが、空母対空母による最初の海戦となった珊瑚海海戦だった。

結果は、日本側が空母「祥鳳」の沈没と「瑞鶴」の飛行甲板大破により航空機の発着が不能になる被害をうけ、アメリカ側も空母レキシントンの沈没とヨークタウン大破（その

ポト・モレスビーをめぐる日米の攻防戦

◆作戦準備

公式の戦況報告は、ほんらいフレッチャー少将のもとに編成された第一七任務部隊の、ひじょうに長期にわたる諸作戦を力強くうたいあげている。

第一七任務部隊は、空母ヨークタウン、重巡アストリア（スミス少将の旗艦）、ポートルランド、チェスター、駆逐艦モーリス、アンダーソン、ハンマン、ラッセル、ヒューズ、シムス、そしてウォーキだった。この部隊は、パールハーバーを二月十四

後、緊急修理でミッドウェー作戦参加に被害をこらえたが、日本軍のポト・モレスビー攻略を中止させ、次期作戦（ミッドウェー作戦）の参加予定の「翔鶴」と「瑞鶴」（搭乗員の消耗大）をその戦力から離脱させたことにより、戦略的勝利をおさめたといわれている。

秘密報告書は、珊瑚海海戦からの戦果の評価のとりえ方と、戦訓をあらかにしている。

日に出港し、トンガタブの未開発の港に一週間待機したいがい、珊瑚海の戦いの前まで、連続して洋上にとどまっていた。

ヨークタウンの航空隊は、第一一任務部隊のブラウン少将が混成部隊を指揮して、三月十日にラエとサラモアの日本艦船にたいし、ひじょうに成功をおさめた攻撃に参加していた。

（訳注：所存艦船一八隻のうち、沈没五隻（金剛丸、天津丸、天洋丸、第二玉丸、横濱丸）をふくむ一四隻（中破二隻、黄海丸、聖川丸、小破二隻、津軽、朝風、玉丸、ちやいな丸、追風）が被害をうけ、戦傷計三七五名（戦死一三〇名のうち陸

【上】1942年5月8日、珊瑚海海戦において日本空母機から命中弾をうけた翔鶴の沈没したガソリン状態となつた空母レキシントン（右下）爆発炎上するレキシントン（右下）も襲いかかる九七式艦攻撃隊をえがいた



日本軍がポート・モレスビー攻略の拠点としたラエの港と市街地

軍四名、重傷一〇二名のうち陸軍五名、軽傷一四三名。この損害の結果、ポート・モレスビー攻略計画は一か月延期され、南太平洋方面作戦の前途を暗示するものだった。

フィッチ少将に指揮された第一一任務部隊の空母レキシントン、重巡ミネアポリス（キンケイド少将の旗艦）、ニューオリンズ、駆逐艦フェルプス、ディユーイ、ウォーデン、アラガット、エールウィンそしてモナハンは、クリスマス諸島ふきの第一任務部隊に合同するため、バール・ハーバーを四月十六日に出港した。しかし、この集結が完了する

前に第一一任務部隊に合同するため、珊瑚海にふりむけられた。

その間に第一七任務部隊は、トンガタブから珊瑚海方面にもどるよう命令された。

その理由は、日本軍が五月初旬にポート・モレスビーにたいする海路からの攻撃を決行しようとしている明確な徴候にもとづいていた。

〔訳注〕アメリカ海軍通信諜報班が日本海軍の無線の交信を傍受し、その通信文の暗号を解読して、兵力部署の変更、地点符号RZP IIポート・モレスビーの解析などから、日本海軍の行動をつかんだ。

諸部隊は、五月一日に珊瑚海に到着した。それは、ひじょうにきわどいタイミングと考えられた。

二隻の空母（ホーネットとエンタープライズ）で編成されている第一

六任務部隊も、珊瑚海方面に派遣されたが、東京奇襲作戦のため、期限内に戦域に到着できなかった。

艦隊油槽船ネオショー、プラットそしてティベツカヌーは、第一七および第一一任務部隊にたいして補給をした。

珊瑚海におけるこれらの部隊は、戦闘前とその間に、三月のときにくわだてたと同じように、攻撃の好機をとらえるため準備をととのえて、日本軍の基地航空機の進出距離外を遊弋していた。

この戦争中に慣例化された、洋上での延長された作戦行動の長期化は、その発生まえには予見しなかったものだった。しかし、洋上での補給訓練は、ずいぶんとはかどった。

第一七任務部隊が、この延長された期間を耐えることができ、戦闘におけるすばらしい評価をしめたことは、上級士官から下級士官にいたるまでの乗員の貢献によるもので、操艦術、航空術、そして作戦資料の注目すべき記録である。使用された艦隊油槽船の乗員は、充分な感謝の配分をうけとるべきである。

任務部隊の諸作戦は、オーストラリア、ポート・モレスビーとツラギを基地とする南西太平洋方面の航空機、そしてヌーメアの艦隊哨戒機と

の協同態勢のもとにあった（オーストラリア部隊は、五月四日に第一七任務部隊が日本軍を攻撃する二日前にツラギを撤退した）。

第一一任務部隊指揮官がこの報告のなかで述べているように、この協同態勢は、戦術的というよりも戦略的および基地航空機によって入手された日本軍の集中にかんする情報は、ひじょうに貴重であり、ほとんど毎日おこなわれた艦船攻撃は、確実に累積的な援助となった。

しかし、戦術的な状況において航空支援の供給は、その方面で解決していない諸理由のため、問題があった。

二つの明白な障害は、不十分な航空機の数と、オーストラリア基地の遠隔さにあった。

しかし、通信の困難さは、解決の方向にあった。

艦隊部隊との戦術的な諸作戦を協同するため、基地航空機の準備と訓練を用意するには、やらなければならぬとおおくの難関があった。

このような協同は、基地航空機が捜しだしたどんな標的をも、空母搭載機が完全な飛行編隊での攻撃を準備し、長距離の索敵を救援するため絶対に必要である。

史上初の空母対空母決戦

◆戦闘——第一局面

公式報告に認められたように、珊瑚海における諸作戦は、三つの局面にわけられた。

五月四日、空母ヨークタウンの航空隊は、ツラギ港の日本軍船舶に三回の攻撃をくわえた。この攻撃で、合計二二本の航空魚雷と七六発の一〇〇ポンド爆弾が投下され、それぞれ五本の命中と一一発の直撃の結果を得た。

〔訳注〕雷撃機が「沖島」を包囲して左六機、右二機で雷撃、魚雷はいずれも「沖島」の前方を通過して、横付け中もしくは横付けを離して前進をはじめたばかりの駆逐艦「菊月」の右舷機械室に一本が命中して、その後沈没した。「玉丸」は至近弾による漏水、擱坐のちに沈没。第一、第二号掃海特務艇は直撃をうけ、いずれも沈没。「夕月」は避退中に攻撃をうけて小火災をおこし、艦長以下一〇名が戦死、重傷二〇名。「沖島」は爆撃されたが被害軽微。「吾妻山丸」の乗員数名と陸戦隊員の重軽傷二〇数名

航空機の反撃はほとんどなく、対空砲火もたいしたことがなかったことを考慮すると、攻撃対象の敵艦船

の数を無力化するために必要とした弾薬消費には、失望させられた。

一本の航空魚雷が、回避運動をとる水上機母艦にたいし発射され、なら命中は得られなかった。これが、実戦における真実である。

照準器と風防のくもりは、最初の攻撃の正確さに影響したが、この状態は低高度からのその後の攻撃にはあてはまらなかった。

ツラギで遂行された能力は、戦時においてどのくらい練度が低下するか、パイロットを連続する実戦の全段階において訓練しつづけ、標的実習の機会をあたえる必要さを強調するものだった。

この訓練の欠如にもかかわらず、空母ヨークタウンの航空隊は、敵が破壊されるまで標的を追いつづけ、賞賛に値する自発性と努力を実証した。わが部隊へのひじょうに小さな損害に反し、日本軍にたいして重大な損害をあたえたことはよろこばしい。

◆戦闘——第二局面

五月七日の第二局面において、レキシントンとヨークタウンの混成編隊が、全体的に

はつきりしない陣形の敵部隊を攻撃した。

ヨークタウン隊は、敵が一隻の空母、一隻のひじょうに大型の重巡、三隻の重巡と一隻の軽巡からなる陣形〔訳注〕重巡「青葉」「加古」「衣笠」「古鷹」、駆逐艦「漣」として報告したのにたいし、レキシントン隊

は、一隻の空母として敵を報告した。

双方の航空隊が、おなじ空母〔訳注〕改装空母「祥鳳」を同時に攻撃したことを理解しようとはせず、あたえた損害にたいして不一致なまま報告をした。

最初に攻撃したレキシントン隊が、七発の爆弾と九本の魚雷の命中を報告したのは、論理的な釈明のようには考えられる。

これにたいし、ひきつづいて攻撃したヨークタウンの編隊は、レキシントン隊が攻撃を完了したあと、航空機を発艦させるため風にむかった空母の艦尾に、わずかな火災ひとつを報告している。ヨークタウン隊は、おなじ空母に一四発の爆弾と一〇本の魚雷の命中を報告している。そしてまた、ヨークタウン隊は、空母に随伴する軽巡も沈めたと報告した。

これら二つの報告から、時刻的に十一時四十五分〔訳注〕現地時刻とまったく一致した。攻撃は、双方の航空隊によって同時におこなわれ、おそらく戦闘の興奮のなかで、どちらとも他方がおなじ攻撃に関係したことを認めなかったように考えられる。しかしながら、ひとつの事は確実



1942年5月7日、米空母機の集中攻撃をうけて沈みゆく改装空母「祥鳳」

である。空母は沈み、そして軽巡も破壊されたという実質的な証拠がある。

ヨークタウン隊が報告した別の敵艦についての言及は、おこなわれなかった。

〔訳注…「祥鳳」の戦闘詳報では、〇八三〇艦戦三機発進。〇八五〇敵一五機以上発見、二隊にわかれる。〇九〇七爆撃、回避。〇九一〇爆撃、すべて至近弾。〇九一七艦戦三機発進直後にVB（艦爆）とVT（艦雷）を認め取

舵、右舷に魚雷を認め面舵。〇九二〇転舵中、飛行甲板後部の昇降機前方に被爆し、飛行甲板は大破、上部格納庫後部に火災。右舷後部に魚雷命中し、その後もなく魚雷、爆弾あいついで命中。〇九三〇ごろ爆弾一三発、魚雷七本命中し、船体は火炎につつまれ、浸水は上甲板にたつする。〇九三一総員退去下令。〇九五〇全没。デボイネ五九度、五三海里の地点。日本海軍は東京標準時を使用し、時差は二時間）

ツラギとおなじように、日本軍の損害は、わが損失に比較して大きかった。

◆戦訓——第三局面

最終的な戦訓は、わが空母にたいする日本機による同時攻撃のみならず、およそ同時に、敵空母にたい

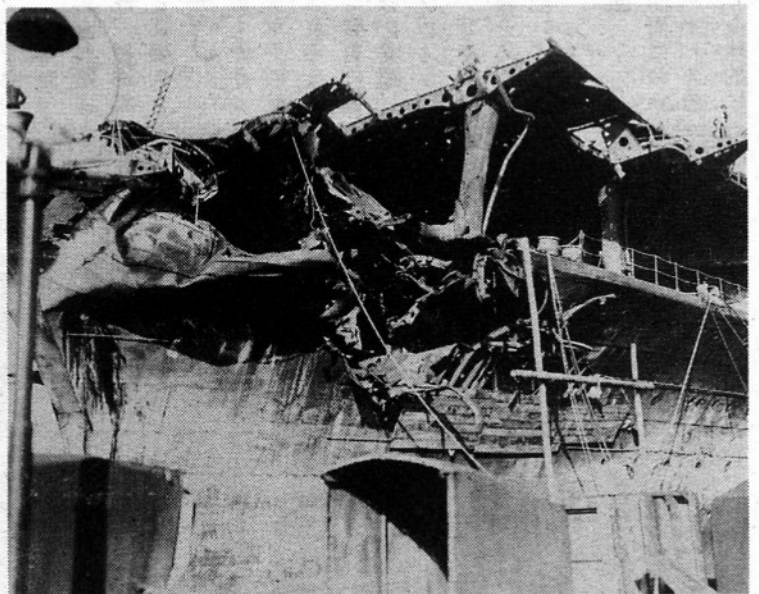
するわが攻撃隊による攻撃をまきこんで五月八日におこった。

おたがいの攻撃隊が、とちゅうの空中で戦闘を演じたとの言及がないことは、意味深長である。

日本海軍は、二隻の空母〔訳注…「翔鶴」「瑞鶴」、四隻の重巡〔訳注…「妙高」「羽黒」そして三隻の駆逐艦〔訳注…「曙」「潮」「有明」「夕暮」「白露」「時雨」〕の陣形であると、ヨークタウンの偵察機によって報告された。

二つの航空隊による攻撃報告は、両方の空母が攻撃され、損害をうけたことを明確に証明しなかった。

一隻の敵空母〔訳注…「翔鶴」〕だけが五月八日に直撃をうけ〔訳注…投下爆弾二九発のうち直撃弾三発のみ、飛行甲板使用不能〕、レキシントンとヨークタウンの攻撃隊が、おなじ空母を攻撃した可能性がある。



珊瑚海海戦において飛行甲板に大きな被害を受けて呉に帰投した空母「翔鶴」

二隻目の空母〔訳注…「瑞鶴」〕は、雲にかくれる有利な立場をとった可能性があり、退避した。

もし命中の数が、パイロットが主張する魚雷八本と二一信管と二三番の百分の一秒信管を装着した八発の容量のおお一〇〇〇ポンド爆弾であるならば、爆弾と魚雷の弾頭の両方は改良しなければならぬ。

わが空母群にたいする攻撃において、敵機はおおよそ距離一三〇キロで

レーダーによってとらえられた。

この警告と空母上空の戦闘機の掩護にもかかわらず、敵機が攻撃地点に到達する前に首尾よく迎撃をしたのは、われらの戦闘機のわずか一つのグループだけだった。

日本機との大きな優劣の差を考慮すると、対雷撃機哨戒におけるSB Dドーン・トレスの遂行能力は、おおいに賞賛に値する。

激しい対空砲火、あるいは攻撃手順の変更からか、日本海軍の雷撃機のが空母群への接敵は、プリンス・オブ・ウェールズとレパルスにたいする攻撃のさいに活用した接敵とは、かなりことになったものであったことは注目しに値する。

イギリス艦船にたいする接敵は、飛行中隊単位の編隊でおこなわれたが、珊瑚海においては、飛行中隊単位が小さなグループに分散し、異方向から攻撃してきた。

あるグループは、確固として低高度で飛来し、相対的に高速度で海面から四六〇メートルで魚雷を投下した〔訳注…日本側戦訓——雷撃時ノ敵防御砲火ハ超低高度ニオイテ危害小ナリ〕。

別のグループは、高速度の滑空で接近し、一五二メートルほどの高度から投下した。

分析された戦闘の様相

◆総体的な論評

五月七日の夕方、敵機がわが空母に着艦を試みた。それは、敵空母群がもつとも近くに接近していた可能性をしめしている(訳注…距離およそ七〇海里、およそ一三〇キロ)。この事態にたいする所見のなかで、任務部隊指揮官が水上部隊による夜間の索敵と敵部隊への攻撃を決定しようとする願望を、充分に考慮したことをしめしている。

わが空母群の南西で沈んだネオシヨールとシムスの点から見て、敵の別の空母が、その方面に存在する公算があった。しかしながら、敵の位置の不明瞭さが、任務部隊指揮官が成功の算のある索敵をはじめのを困

難にした。

このような攻撃を試みなかった彼の決意は正常であり、彼が敵の陣形を知らない時点で、部隊を分散させなかったのは正しい。

太平洋艦隊司令長官は、空母レキシントンに突然のすさまじい破壊の原因にかんし、副長と部隊指揮官によって強調され見解を認めた。

(訳注…レキシントンは、魚雷の命中を受け、傾斜七度となり、三個の缶室に部分的に浸水してリフト使用不能になり、三カ所で火災が発生した。)

まもなくバラストの移動によって艦は水平にもどり、速力は充分に発揮できた。飛行甲板は無傷で、航空作戦に支障はなかった。

一〇時四七分艦内で大爆発。原因は、魚雷命中によってゆるんだガソリ

ンタンクから漏れたガソリン蒸気がう

つ積し、運転したままになっていたガソリン発電機のスパークで発火し、ひきつづき爆発がおこったものだった。

一二時四五分、第二回目の大爆発。一四時四三分、蒸気的安全弁開放、停止。味方駆逐艦の魚雷で処分。沈没しながら最後の大爆発を起こした。

こうして空母レキシントンはうしなわれた。

空母艦上の純度の高いガソリンの大量の存在は、脅威ではあるが、甘受しなければならぬ。しかし、レキシントンのありさまを二度とくりかえさないためにも、予防手段を構

じなければならぬ。

うしなわれたレキシントンのほとんどの乗員は、随伴する艦船の救援、乗員の気迫、そして艦の機構への信頼をもっていった。

第一七・五・四任務隊の駆逐艦と

第一七・二・一任務隊の巡洋艦の船乗りらしい遂行能力は、軍務のもつとも高い伝統と調和している。

戦闘の三日間のめだった具体的な失敗は、高度五一八二メートル、もしくはそれ以上からの急降下中の爆撃照準器のくもりである。現在この問題を解決する努力が、緊急におしすすめられるべきである。その他の点で、ほとんど具体的な失敗はなかったことはよろこばしい。

爆弾投下機構は、適切に作動した。そして、戦闘機の機銃の故障はほとんどなかった。

五インチ対空砲列は、すこぶるよかった。自動式対空兵器の事故は、過去にくらべて少なかった。発生する事故の大部分は、装填の停止で、頻繁な射撃練習のみによって減らすことができる。

雑誌「丸」オリジナル・テレホンカード!

太平洋を圧した世界最大の戦艦「大和」と、連合国パイロットを震え上がらせた名機「零式艦上戦闘機」——そのベストショットがテレホンカードとなって登場!

★戦艦「大和」★零式艦上戦闘機二二型

定価各1000円(税・送料込/50度数)

潮書房「丸」代理部

●ご注文方法▼テレホンカード名
「大和」または「零戦」とご注文枚数を明記し、為替、振替、現金書留で
小社代理部宛お申し込み下さい。

東京中央郵便局私書箱第20000号
振替・東京2014560000
TEL 03(3200)0000 (代)



イラスト・エッセイ・シリーズ84

灼熱のジャングルを闊歩した名物曹長、ドノの泣き笑い物語！

菊兵团地獄の戦場物語

最強師団ビルマ戦線奮戦記

新井貞一

定価1200円(税込)

好評発売中！

投入された兵力三八、四九八人のうち、戦没者一九〇、九〇〇人という悲劇の戦場ビルマ戦線。対十五の死闘に身を投じながら、諦めずに進軍をかきえた飢餓、瘴癘の地に繰りひろげられた兵隊たちの戦場ぐらしを描くイラスト・エッセイ！



光人社 千102 東京千代田九段北1-9-11
電話03(3265)1864(代表)

任務部隊指揮官は、毎日の訓練のなかで、このような練習に重点をおいている。

体験が、空母の戦闘機の数に至急二七機に増加すべきであり、現用の雷撃機はより速く、より長い航続距離のある機体と交替させるべきであるとの第一七・五任務群指揮官の忠告に、強くささえられている。これから忠告の双方は、現在完了しつつある。

ヨークタウンの部隊指揮官の報告と忠告の双方は、すぐれている。太平洋艦隊司令長官は、基本的に正しいこれらの忠告を考慮して、心からそれらに同意する。

巡洋艦群と駆逐艦群が、一四〇〇から二三〇〇メートルを占位しながら空母のまわりをとりかこむ厳重な「V」陣形が、いくつかの報告のな

かで推せんされている。

輪型の外側の砲が、低空で接近してくる雷撃機にたいする防御をし、同時に内側の砲は、空母と全体の陣形の上空を対空弾幕砲火でおおう。これはすばらしい計画と思われる。厳重な警戒は、部隊指揮官によつ

珊瑚海海戦がのこした「12」の貴重な教訓

◆戦闘教訓の要約

関連する所見と、海戦からのもっとも重要な教訓が、今後の検討に供されるため、この小項目に手短かに述べられている。

(a) 航空と砲術の双方の要員の熟練度は、鍛練の困難さから実戦中にひどく低下する。任務部隊指揮官は、訓練を強化するだけでなく、陸上基地での訓練が広くおこなわれなくてはならない。

て電報で勧告されていた。この対空陣形は、観測された日本軍の戦術との完全な相違である。空母を警戒している日本軍の巡洋艦と駆逐艦群は、自分自身もしくは空母のための対空砲火の協同をとらないで、広く分散していた。

はならない。

(b) 照準器と風防のくもりは、急降下爆撃に重大に影響している。この欠点の早急な修正がいそがれている。

(c) 不十分な数の戦闘機群は、味方の攻撃中の飛行隊、もしくは任務部隊の艦船双方の適切な防御をさまたげる。このため、空母における戦闘機の搭載量は、一八機から二七機に

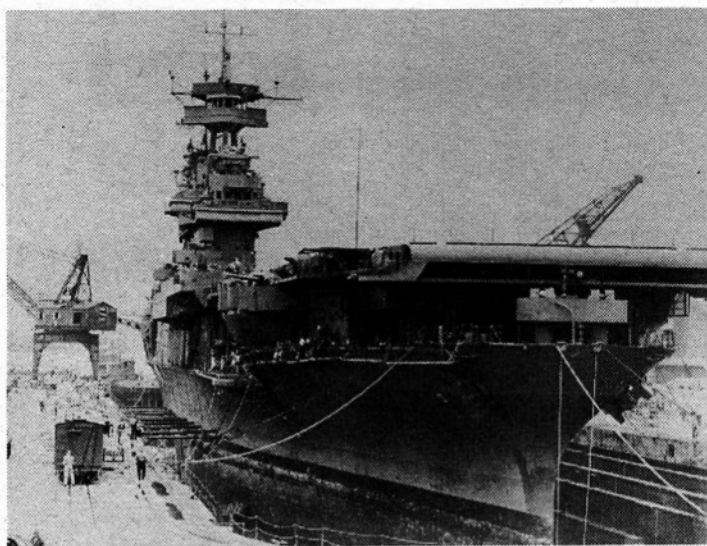
増えつつある。

〔訳注〕レキシントンの搭載機数七〇機のうち戦闘機二二機。ヨークタウンの搭載機数七一機のうち二〇機。「翔鶴」の搭載機数五四機のうち戦闘機一七機。「瑞鶴」の搭載機数六三機のうち戦闘機二〇機

(d) 時代遅れの雷撃機は、味方雷撃隊の効力を弱める。雷撃機は、新型に交替しつつある。

〔訳注〕ダグラスTB Dデバステーターは一九三四年に発注され、一九三七年秋に第一線配備された。グラマンTB F Aベンジャールは、一九四〇年四月に発注、一九四一年八月に初飛行、一九四二年三月に一部が配属され、六月のミッドウェー海戦で初陣をかざる

(e) 雷撃機の攻撃は、急降下爆撃を密接に調整されたとき、もつとも効果的である。珊瑚海の戦いの成功の



珊瑚海海戦で損傷した空母ヨークタウンはハワイで応急修理をうけた

整しななければならない。
い。

(h) 基地航空機と艦隊部隊の諸作戦は、混成訓練を集中させること

も装備されていた)
機を誘導するレーダー

を阻止する能力をあた
えるため、飛来する敵
襲への警告、敵機の迎

撃にむかう母艦の戦闘
機を誘導するレーダー
は準備されていた)

(g) すべての空母は、

大部分は、協同攻撃のなかにある。
(f) 引き金をひきつけているかき
り、弾丸の装填、発射、空薬莖の排
出が連続的にこなわれる自動式の
銃器は、敵機がその搭載兵器を投下
する前に射ちおとすことができるよ
うに、製造過程で銃弾が標的にとど
く時間を考慮にいられて、航空機の
前方をねらって撃つコンピュータ照
準器と、射撃諸元を算定する装置を
至急に必要としている。
〔訳注…対空と水上標的にたいする両

用の五インチ砲は、Mk 37 射撃統制シ
ステムを活用し、Mk 12 レーダーと方
位盤が連結していた。四〇ミリ砲はM
k 49 方位盤が、Mk 19 レーダーによつ
て射程を測定していた。一九四四年五
月にMk 14 照準器内蔵の新式のMk 51
方位盤にかわった。コンピュータと
レーダーが活用されていたが、盲目射
撃の能力はもっていなかった。自由に
操作する二〇ミリ砲は、環照準器とお
なじ位置にMk 51 方位盤を使用したM
k 14 照準器をも装備した)

(g) すべての空母は、

〔訳注…珊瑚海海戦の日本側戦訓に次
の事項がある。(f) 海上航空戦に於て基
地航空兵力と空母とノ緊密ナル共同連
繫ニ依リ航空威力ノ全幅發揮ニ務ムル
コト肝要ナリ。空母ハ基地航空兵力ノ
支援下ニ作戰スル場合ニ於テ其ノ全能
ヲ發揮シ得ルヲ常トスル〕

た耐久、持久力以上のものを強要し
てはならないためにも、充分な準備
で、交替部隊をつくる方向にすま
なければならぬ。
(k) 大量のガソリンを搭載する空母
の脅威をとりのぞく、予防手段を構
じなくてはならない。
〔訳注…ガソリンの貯蔵法に、タンク
内に窒素ガスを圧力によって充填し、
空部分をなくしたり、タンクの周辺の
区画に海水を注入し、さらにタンク内
にも海水をいれて、ガソリンを海水に
浮かして貯蔵する方法をとった〕

より大型の航空魚雷の弾頭〔訳
注…TNT 弾頭からトーベックス火薬
に移行した。およそ六三五ポンドのト
ーベックス火薬は、爆発力でTNT 火
薬の九〇〇から一二〇〇ポンドに相当
した〕が、この方面へ優先的にあた
えられるべきである。

(1) 警戒艦は、輪型陣の一四〇〇
〜二三〇〇メートルに占位したと
き、敵雷撃機にたいして空母にとつ
て最上の防御をおこなえた〔訳注…
日本側戦訓防砲火ハ極メテ熾烈ニシ
テ特ニ敵ハ見事ナル彈幕射撃ヲ実施セ
リ〕。

現在の一〇〇〇ポンド爆弾タイプ
より、もっと適切な爆弾が急降下爆
撃機に必要である。

合衆国太平洋艦隊司令長官は、フ
レッチャー少将が五月四日から八日
のあいだの珊瑚海の戦いまでに、彼
に供給された情報を完全かつ巧妙に
活用し、連合軍の大目的のために結
果を達成し、決定的な勝利をかちと
つたことを考慮にいれる。

〔訳注…日本側戦訓によると「一般に
爆発威力及燃焼力極めて大」とある。
「祥鳳」では飛行甲板を貫通後に炸裂
し、火災をおこすとともに飛行甲板を
吹きあげられた〕

裁定するについての推薦は、別々
の対応においておこなわれる。

(i) 攻撃努力の重点は、航空要員の
勇敢な献身的態度によって遂行され
ている。搭乗員には、道理にかなつ

〔訳・原 勝洋〕